

いいもの成らせるさくらんぼ便り

Vol. 5 生育は平年より早い!適切な管理で高品質生産!

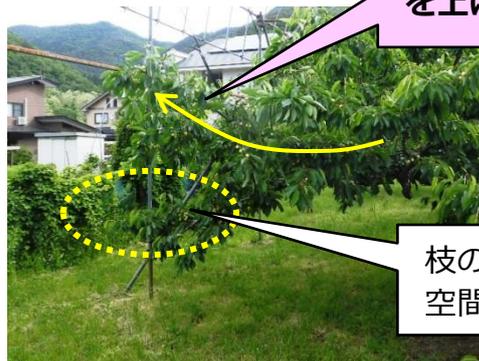
- ◆生育は平年より5日~7日早い!着果は園地や樹によるバラつきがみられ、着果が少ない樹ではさらに生育が早まることが想定される
- ◆着色管理は遅れず実施し、適期収穫(もぎ遅れに注意)を心がけよう!

1 着色管理

(1) 枝吊り・誘引(新梢管理、葉摘み前に実施)

- ◆果実に光が当たるように、枝吊り・誘引を行う
- ◆枝と枝の間隔をあけ、日当たりを確保する

- 下垂した枝は、先端が上を向くように吊り上げる
- 誘引で枝の向きを変え空間を確保する



枝の先端を上げる

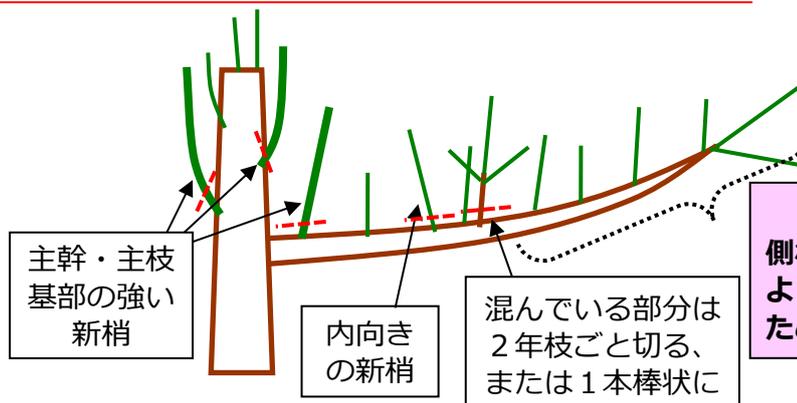
枝の間
空間確保

(2) 新梢管理

- ◆樹冠内に光を入れ、着色を向上させる
- ◆薬剤を樹冠内部まで到達しやすくして、病害虫を減らす
- ◆発育枝を利用して樹勢を維持する(切り過ぎは樹を弱らせる)

- 主幹周り、主枝基部の混み合った新梢を切り取る
- 日焼け防止のため、主枝背面の新梢はコンパクトに残す
- 切り過ぎに注意(適度に残す)

※注意: 樹勢が弱い樹では、新梢は切らない



重要
側枝の基部 1/3~1/2
より先は樹勢維持の
ため残す

(3) 修正摘果

- 着果過多の園地・樹は**急いで修正摘果**を！
- 双子果**や**小さい果実**を**優先して摘果**
- 果実同士の接触は、着色ムラの原因
- 摘果した果実は放置しない**
➡ 病害虫の発生（伝染）源！



反射シートの設置

(4) 反射シート設置

- 着色始期頃（収穫2週間前頃）から設置
- 設置は園地の**50%程度**（十分な効果が得られる）
- 高温が続く場合、**収穫期に達したら除去**

(5) 葉摘みは最小限に！

- 短果枝当たり大きい葉を**4枚以上残す！**過度の葉摘みは逆効果
- 高温障害の発生を軽減するため、樹上部の葉摘みは最小限にする



【摘み取る葉】

- ・果実に覆いかぶさっている葉
- ・葉柄が短く小さい葉（マメ葉）
- ・果実の間に挟まっている葉

2 かん水(着色期～収穫期)

- 乾燥時は**3～4日おきに少量**かん水（1～2t/10a、1樹100L程度）
※着果量の少ない園地・排水が良くない園地では、裂果に注意！

3 防除

～生育が早いので**遅れずに・間隔が開き過ぎないように防除徹底！**～

○シウジョウバエ類対策

- ・オウトウシウジョウバエの**発生時期が早く、確認虫数も多い**（病害虫防除所）ため、遅れずに、散布間隔が開き過ぎないように薬剤防除を徹底

○果樹カメムシ類対策

- ・園地で成虫の寄生や卵塊、被害果を確認したら、**速やかに捕殺、薬剤散布**を行う

- 灰星病の重点防除時期：収穫時期を考慮し、定期的に薬剤を散布

さくらんぼ作業中の事故が多発！！

注意！

- 脚立は**チェーン**を掛ける！**天板には立たない！**
- 危険な作業は二人以上**で、携帯電話も忘れずに！
- 暑さが続くので、**熱中症にも注意！**